

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価（案）

## 1 めざす学校像

「社会と調和し自立して生きる力」を持つ生徒を育て、地域から信頼される学校をめざす。

布施北高校は生徒に以下の力をつけるために、多様な学びを実践し、地元保・幼・小・中・大学、企業・施設など関係諸機関と連携を深め、地域の組織・人材を活用して大阪府でもっとも進んだキャリア教育を行うことで、総合的な「学校力」を高めて、生徒一人ひとりが「入って良かった」と思える学校づくりを実現する。

- ① 自分を大切にするとともに他の人を大切に、周囲と協力し合う力
- ② よき市民としての規範意識と確かな学力
- ③ 自分の力を信じ、自分の未来に希望を持つ志
- ④ 人とつながる喜びを知り、地域・社会に貢献しようとする意欲
- ⑤ 我慢がよくへこたれないねばり強さ

## 2 中期的目標

## 1 学習活動の充実

- ① 普通科・デュアル総合学科それぞれの特長を踏まえ、「わかる授業づくり」「魅力ある授業づくり」に向けて、各教員が授業力向上に取り組む。
- ② 普通科における「基礎学」をはじめとする学習活動の充実、完成年度を迎えるデュアル総合学科における実習や教科設定科目の学習内容の充実を図る。

\* 学校教育自己診断における生徒の授業満足度を（平成 23 年度 47.9%、平成 25 年度 51.8%、平成 26 年度 44.4%）を平成 27 年度 55%以上にする。

\* 進級卒業率の向上（平成 25 年度 87.9%→平成 26 年度 91.9%→平成 27 年度 93%以上に）

\* 不登校率の減少（平成 25 年度 31.7%→平成 26 年度 26.4%→平成 27 年度 24%以下に）

\* 中途退学率の減少（平成 25 年度 15.9%→平成 27 年度 10%以下に）

## 2 人権教育を基盤とした魅力ある学校づくり

- ① 生徒一人ひとりを大切に生徒指導を通じて、生徒の規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立を図り、中途退学及び原級留置を防止する。
- ② 保護者との連携・協力体制を強め、担任・学年団と生徒指導部が連帯して、計画的・組織的に面談、家庭訪問をはじめ日々の連絡強化に努める。
- ③ 各中学校との連携を密にし、個々の生徒指導に活かす。
- ④ 教育相談機能を充実させ、各分掌と連携してケース会議を開くなど、個々の生徒の状況を把握し共有し、生徒支援に活かす。
- ⑤ 生徒会活動や特別活動、学校行事を通じて仲間づくりや生徒の自己有用感を高め、学校・学年・学級への帰属意識を醸成する。
- ⑥ 全教職員が同和教育をはじめとした人権教育の理念を学び、尊重して共通理解を深め、すべての教育活動の中に人権教育を位置づけ、教育実践への反映に努めることにより人権教育を推進する。
- ⑦ 多数の中国等帰国生徒や外国人生徒が在籍する学校として、学習の保障と進路保障に向けての支援を行うとともに、多文化共生教育を推進し、「ともに学ぶ」学校づくりを進める。

## 3 キャリア教育・進路指導の充実

- ① 三年間を見通したキャリア教育（勤労観・職業観を養い、将来の自分の生き方について展望を持つための働きかけ）を積極的に進める。
- ② 学ぶこと、働くこと、自分らしく生きることの大切さを理解し、自己肯定感や勤労観・職業観を育むことができるよう、発達段階に応じた系統的・継続的なキャリア教育・進路指導を実践する。

\* 平成 24 年度の進学率 27.0%を平成 27 年度には 30%に、進路未定率 25.5%を 20%以下にする。

## 4 組織体制の強化と積極的な情報発信

- ① インターンシップやデュアル実習を通して地域を中心とした事業所・施設・教育機関等との連携を強化し、ともに次の世代を育てることにつながりあい、学び合い、助け合いながら組織としての成長を図る。
- ② 教職員が社会人として生徒のよきロールモデルとなり自信を持ってキャリア教育を行えるよう、教職員に対する研修を計画的に実施する。
- ③ デュアル総合学科をはじめとした学校のさまざまな取り組みや情報を、保護者、中学校、地域、府民に向けて発信し、学校イメージの向上を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【生徒】</b> 昨年度と共通の項目は 17 項目であるが、全項目で評価が上昇した。中でも 1 年生の肯定的評価が 60.4%（←46.5%）、「学校に行くのが楽しい」は 67.4%、「自分のクラスは楽しい」は 75.3%であった。授業については、全学年で「教え方に工夫している先生が多い」62.4%（←55.4%）「授業などでコンピュータやプロジェクトを活用している」76.9%と授業改善評価を受けた。また、「将来の進路や生き方について考える機会がある」72.6%（←55.2%）と、本校の進路指導やキャリア教育が実感される結果となった。</p> <p><b>【保護者】</b> さらに回答数が増加した。生徒の結果と同様、保護者も「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」72.2%（←68.2%）、「自分のクラスが楽しいと言っている」65.4%（←61.8%）など多くの項目で肯定的意見が増加した。一方、「学校から家庭への積極的な意思疎通」70.8%（←76.2%）、「PTA 活動への参加」が 48.8%（←46.4%）であり、保護者への情報提供や保護者と協力しての活動への工夫が望まれていると言える。</p> <p><b>【教職員】</b> 回収率は引き続き 100%。今年度の特徴は、一つは生徒の結果と同様授業改善等について「教員間での教育活動改善への話し合い」82.4%（←78.8%）、「参加体験型など指導方法の工夫・改善」87.9%（←81.3%）である。もう一つはこれも生徒評価と同様「進路選択への情報提供」78.3%や「キャリア教育」79.1%が高かった。一方「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」56.7%（←64.6%）では課題が示された。</p>	<p>第 1 回学校協議会（6 月 19 日） 新入生のようなすを含む学校の状況と今年度の学校経営計画について説明し、昨年度に引き続き授業見学のために校内を回っていただいた。授業見学には、一様に「落ち着いている」との感想で、複数担任への期待の意見や、ホームページの更新が非常に増えていることを評価いただき、「書き込まれた質問へ回答することで印象がよくなる」などのアイデアを出された。</p> <p>第 2 回学校協議会（11 月 27 日） 3 学年揃って初めてのデュアル発表会を見ていただいた後、引き続き協議会を開き、「去年より生徒の成長を感じた。」「11 年間の積み重ね、成果を改めて実感した。」「絆が希薄になってきている時代だからこそ、布施北を中心としたネットワークづくりをめざしてほしい。」といった意見をいただいた。</p> <p>第 3 回学校協議会（3 月 5 日） 学校教育自己診断結果を踏まえ、一年間の取り組みを振り返って協議・提言いただいた。「友だち、先生、デュアル実習先など、生徒の居場所を多く作ることで生徒の夢や自信を育て、卒業につなげていってほしい。」また、デュアルシステムについては、「デュアル実習を経験することで卒業後の進路での定着を図ってほしい。」「実習先と保護者の交流を。」「さらなる話題づくりと知名度の向上をめざしてほしい。」など、今後に向けてのヒントや指摘、今年度の 1 年生の取り組み成果を評価する言葉もいただいた。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習活動の充実	<p>(1) 生徒が集中して学習に取り組める学習環境の整備</p> <p>(2) 生徒が「わかった」「楽しい」と思う主体的な学びを成立させる教職員の授業力の向上</p> <p>(3) デュアル総合学科3年間のカリキュラムの検証と授業内容の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 3学年通じての少人数クラス展開</p> <p>イ 1学年の習熟度別授業(「英語」・「数学」)やTT授業(「基礎学」・「情報」)を通じて「授業定着」「学ぶ姿勢」「学ぶ力」の育成に取り組む。</p> <p>ウ 授業中の「五大規律」を一致して指導し、「授業こそが生徒指導の場面」として落ち着いた授業環境を作る。</p> <p>エ ICT教育環境をさらに充実させる。</p> <p>(2)</p> <p>ア 参加体験型授業を増やす。</p> <p>イ ICT等を活用した授業の取組みを増やし、コンテンツの共有を図る。</p> <p>ウ ア・イを含め、授業の工夫を教職員が互いに学び合い授業研究できる機会を持つ。</p> <p>(3)</p> <p>ア 2・3年生のスムーズな実習の遂行</p> <p>イ デュアル教科科目の教育内容の充実</p> <p>ウ 外部講師や高大連携のさらなる充実</p>	<p>(1)</p> <p>昨年度比目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期欠席生徒数 10%減</li> <li>・中途退学生徒数 10%減</li> <li>・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度 H26年度 44.4%を 50%以上にする。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加体験型授業の増加</li> <li>・ICT活用教員を 70%に</li> <li>・研究授業等の充実</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習出席率 80%以上</li> <li>・検定合格率 70%以上</li> <li>・外部講師招聘数の増加</li> </ul>	<p>(1) ア 少人数クラス展開や TT 授業、遅刻指導室での登校状況把握と指導、さらに複数担任、行事の工夫等に努めた結果、欠席数前年度比 29%減(◎)、原級留置者数前年度比約 42%減(◎)ー昨年度との比約 58%減(◎)、退学者数前年度比約 30%減(◎)と大幅な成果を挙げた。</p> <p>イウエ 経営推進費による ICT 教育環境整備を機に、校内授業改善チームによる授業公開等を推進した結果、「わかりやすく楽しい(生徒)」は 49.7%であるが、「教え方に工夫している(生徒)」が 67.2%←55.4%と大幅に上昇した。(◎)</p> <p>(2) ア 「参加体験型の学習を行うなどの工夫・改善(教員)」は 87.9%←81.3%(○) イ 活用できる教員は 80%近く、生徒の評価も「活用している」が 79.0%(◎)が、コンテンツの共有は一部の教員にとどまっている。(△)</p> <p>ウ 研究授業は例年通りの回数であるが有志改善チームが発足(○)</p> <p>(3) ア 実習出席率は、2年生が 88.8%、3年生が 87.8%(◎) イ 検定合格率は見込を含めると約 70%(○) ウ デュアル特別非常勤講師 8名←4名(◎)</p>
2 人権教育を基盤とした魅力ある学校づくり	<p>(1) 一人ひとりの生徒をしっかり把握し高校生活に定着させるための生徒指導の充実</p> <p>(2) 生徒を受け止める教育相談の機能充実</p> <p>(3) 生徒の居場所となる魅力ある学校づくり</p> <p>(4) 人権教育の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア 少人数クラス展開し、さらに 1 年次を複数担任制にすることで、きめ細かな生徒把握・生徒対応を行う。</p> <p>イ 丁寧な家庭連絡や家庭訪問により保護者との連携を図り、学校行事への参加や PTA 活動への参加を呼び掛ける。</p> <p>ウ 随時迅速な中高連携と中高連絡会の開催や全教員による中学校訪問を実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 定期的な生徒の状況把握に努めるとともに、スクールカウンセラー、教育相談実習生と協力し、配慮生徒のケース会議や教職員研修を実施する。</p> <p>(3)</p> <p>ア 部活動や生徒会活動を活発にし、活動状況を校外に発信する。</p> <p>(4)</p> <p>ア 生徒対象の人権学習を発達段階に応じ系統的・計画的に実施する。</p> <p>イ 人権教育をテーマとした教職員研修を継続実施する。</p> <p>ウ 中国等帰国生徒及び外国人生徒のアイデンティティを大切にしつつ、ともに学ぶ教育を推進する。</p>	<p>(1)(2)(3)</p> <p>昨年度比目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期欠席生徒数 10%減</li> <li>・中途退学生徒数 10%減</li> <li>・遅刻・欠席生徒数 10%減</li> <li>・保護者向け学校教育自己診断における学校の生徒指導方針への肯定的評価を 5%増</li> <li>・生徒向け学校教育自己診断における教育相談への肯定的評価を 5%増</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動の発信(ホームページの立ち上げ)</li> <li>・部活動加入率を 35%に。</li> </ul> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を見通した人権学習の実施</li> <li>・教職員人権研修の実施(年間 4 回以上)</li> </ul>	<p>(1) アイウ 懲戒人数は増加したものの(114人←86人 12月末)家庭訪問、中学校連携は進んでいる。(○)長期欠席生徒数 1.5%の減にとどまった(△)が、欠席数は 22.9%の減(実欠席数は 10%の減)となった。(◎)</p> <p>イ 保護者向け学校教育自己診断における学校の生徒指導方針への肯定的評価は 58.5%←58.0%と微増であるが、学校行事への参加は 3 年前と比較すると 48.8%←35.6%、アンケート提出数 162←91 と増加している。(◎)</p> <p>(2) ア 「相談できる先生が多い」は 54.9%←46.2%と増加した。(◎)</p> <p>(3) ア 生徒会活動は、これまでの「挨拶運動」や学校行事の運営のほか、美化委員・運動部員とともに学校周辺の清掃活動、学校説明会の運営参加など、活動の幅を広げた。(○)部活動加入率は 31%と、一部の部活動は活性化したものの、全体化しなかった。(△)行事への参加はさらに増加し、体育祭の出席率は 86.1%←84.1%、文化祭の出席率は 83.9%←75.2%(◎)</p> <p>(4) ア 総合的な学習の時間等を活用し、人権学習をさらに系統的に計画化した。「人権について学ぶ機会がある」と答えた生徒は 72.1%。(○)</p> <p>イ 府立人研、府立外教等と連携し教職員人権研修を計画どおり実施した。(○)</p>
3 キャリア教育・進路指導の充実	<p>(1) 生徒指導と連携した取組み</p> <p>(2) 3年間を見通した体系的な取組み</p> <p>(3) 進路指導の取組み</p>	<p>(1)</p> <p>ア 頭髪指導や服装指導、遅刻指導による規範意識の醸成</p> <p>イ 「授業規律」の再確認</p> <p>(2)</p> <p>ア 1年時よりキャリア教育の充実のために職業適性検査、インターンシップ、進路説明会、社会人講話や、企業・専門学校・大学など見学や体験の機会を設け、生徒個人個人の進路設計への意識を高める。</p> <p>(3)</p> <p>ア 進路決定及び定着のための取組み継続</p>	<p>(1)(2)</p> <p>昨年度比目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路未定率 20%以下</li> <li>・就職内定率 5%増(卒業生全体に対する割合)</li> <li>・進学率 5%増(卒業生全体に対する割合)</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会人講座」の継続</li> </ul>	<p>(1) 遅刻指導室の設置やメロディチャイムの開始、服装指導を強化し、「授業五大規律」を再確認。進路未定率は 22.1%。(△)</p> <p>(2) 3年間を通じた体系的な取組みが各学年共通に浸透しつつあり、生徒の進路指導評価は 77.7%←55.2%である。(◎)</p> <p>(3) 離職防止への取組みとして、内定者向けの「社会人講座」を昨年度に引き続き実施。(○)</p>
4 組織体制の強化と積極的な情報発信	<p>(1) 地域等との連携強化</p> <p>(2) 教職員研修の充実</p> <p>(3) 情報発信の強化</p>	<p>(1)</p> <p>ア デュアル実習連携企業・施設の拡大</p> <p>イ 中小企業家同友会との連携</p> <p>ウ デュアルシステムでの連携企業・施設等の交流組織を設立し、地域交流を促進する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 教職員対象の社会人研修を実施</p> <p>(3)</p> <p>ア 保護者向けメール配信の充実</p> <p>イ ホームページの更新回数増と内容充実</p> <p>ウ 学校ニュース作成等による情報発信を行う。</p> <p>エ 中学校訪問の機会の増加</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規連携協力企業 30 社以上の確保</li> <li>・「デュアル懇話会」を設立</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の実施</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA メール登録数の 10%増(H26 140 件)</li> <li>・ホームページ更新 30 回</li> <li>・学校ニュースの作成</li> <li>・中学校訪問数 10%増</li> </ul>	<p>(1) ア デュアル連携企業数約 150 社←110 社(◎)</p> <p>イ 大阪府中小企業家同友会のブロック連携と、講師参加及び勉強会への参加。(◎)</p> <p>ウ 学校と連携事業所の交流会は実施したが、組織の立ち上げは計画段階。(○)</p> <p>(2) ア ハローワーク講師による研修を実施。(○)</p> <p>(3) ア メール登録数は 210 件となり、1.5 倍に増加。(◎)</p> <p>イ ホームページ更新は週 2 回以上で、行事ニュース等を充実させた。(◎)</p> <p>ウ 中学校向け学校ニュース作成を継続。(○)</p> <p>エ 中学校訪問数は横ばい(△)</p>